大人の門出 自覚新た

阪神間6市1町で成人式

「感謝の気持ち 忘れない」

成人の日の9日、阪神間6市1町でも成人式が開かれ、計1万6135人が大人の仲間入りをした。華やかな振り袖やスーツを着た新成人たちは、支えてくれた家族や仲間らへの感謝の気持ちを胸に、旧友たちと門出を祝った。（社会面参照）

晴れ着姿で談笑しながら写真撮影を楽しむ新成人たち＝県立総合体育館（撮影・三津山朋彦）

同級生が集まり記念写真に納まる新成人ら＝ベイコム総合体育館

西宮市の式典は県立総合体育館（同市鳴尾浜1）であり、神戸薬科大1年の齋藤華子さん(20)＝同市＝と関西大1年の仙石太一さん(20)＝同＝があいさつした。

齋藤さんは近年各地で頻発している災害に触れ、「当たり前の日常を、平穏に過ごすことができるのは幸せなこと。人とのつながりを大切に、感謝の気持ちを忘れず過ごしたい」と述べた。

仙石さんは昨年のリオデジャネイロ五輪を挙げ、「夢に挑戦する姿に感動や勇気をもらった。この日を節目に次の世代の手本となれるよう頑張りたい」と宣言した。

今村岳司市長は「皆さんは私たちの世代が実現できなかった夢を実現できる。私たちにはつくれない西宮、日本、世界をつくって」とエールを送った。

尼崎市の式典はベイコム総合体育館（同市西長洲町1）で開かれ、約2600人が集まった。稲村和美市長らが式辞を述べた後、企画委員長の澁谷栞さん(19)＝尼崎市＝と副委員長の下茂由起子さん(20)＝同＝が新成人代表として「住んでいるからこそ分かる尼崎の良さを、1人でも多くの人に伝えていこう」と呼び掛けた。

式典終了後、小学6年生の時に書いた、二十歳の自分に向けた手紙が返却され、新成人らは「懐かしい」「全然覚えていない」などと楽しそうに話していた。

（斉藤絵美、竜門和諒）

新成人の決意

留学、介護、防災支援…

新たな門出を迎えた新成人たち。西宮、尼崎市の成人式会場で、それぞれの決意を聞いた。

武庫川女子大2年の福田史織さん(20)＝西宮市　管理栄養士の資格を取得し、将来は糖尿病患者ら食事療法が必要な人たち向けの食品開発に携わりたい。成人式の前日、母親からアジサイの花びらを加工したネックレスをもらった。花言葉「寛容」の精神を持った女性になりたい。

関西外国語大2年の石井雄大さん(20)＝西宮市　秋からアメリカかオランダの大学へ1年間留学し、社会心理学や宗教などを学ぶ予定。これまでは自分の意見に自信が持てず、意見が違う友達に反論できなかった。論理付けて話ができるようになりたい。実家暮らしなので、まずは寝坊しないことから始めたい。

関西大2年の高浜杏子さん(19)＝尼崎市　デジタルコンテンツの開発について勉強している。私の家の近くにある道路にはひび割れがあり、阪神・淡路大震災でできたものだと教わった。このような震災の経験を、誰でも見られるネット上に保存し、永久に活用できるような方法を考えたい。

介護士渕田晴夏さん(20)＝尼崎市　中学2年生の就業体験でデイサービス施設のお手伝いを体験し、介護に魅力を感じた。今の教育の中では介護に興味を抱く機会が少なくて残念。人手不足で大変だけれど、心を込めて働いた分だけ「ありがとう」と言われる。このやりがいを大切にして